

震災から9年 市東日本大震災追悼式



東日本大震災の発生から9年を迎えた3月11日、市民会館で犠牲者を悼む相馬市東日本大震災追悼式が開催されました。

市が主催し、遺族ら約160人が参列しました。総理大臣官邸での献花式がスクリーンで中継される中、震災の犠牲者を悼み黙とうをささげました。

式で、立谷市長は「震災の災禍と教訓、多くの命を守ってくれた英霊、お寄せいただいた心温まる支援を忘れることなく、後世に語り継いでいきます」と式辞を述べ、菊地清次市議会議長が追悼の辞を述べました。

遺族を代表し、山田真由美

さんが震災からの9年間を回想し「亡くなった家族を精いっぱい供養するために、笑顔で前に進んでいきたい」と犠牲になつた御霊に語りかけました。

※新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、規模を縮小して開催しました。



取り組みの成果が評価を受ける 交通事故防止コンクール

立谷市長は3月6日、市町別別交通事故防止コンクールで本市が1位を受賞したこと



を、市交通対策協議会に市役所で報告しました。

評価方法は、各市町村で発生した交通事故および各市町村に居住する者が県内で起こした交通事故数と過去の実績（平成28年～30年）を比較し令和元年の事故発生増減率を算出し、人口区分ごとに増減率から交通事故防止策への取り組み状況を位置づけるもの。本市は、人口3万人以上の市のグループで1位を受賞しました。

夏休みの思い出を色彩豊かに

絵画の受賞報告

第31回MOA美術館全国児童作品展絵画の部でボーイスカウト日本連盟理事長賞を受賞した押田怜旺さん（桜丘小3年）は2月18日、市役所を訪れ、受賞を報告しました。

受賞作品「ぼくの夏休み」は、押田さんが夏休みにお父さんと森へ昆虫採集に行った思い出をもとに描いた作品で、同賞は応募総数43万9、893点の中の上位15位にあたり

報告を受けた立谷市長は、

「すばらしい想像力をこれからも持ち続けてください」と受賞をたたえました。



遊びを通じて 世代間交流 西部子ども公民館



西部子ども公民館フェスティバル冬は2月15日、同公民館で開催され、地域の子どもたちや親子連れなどでにぎわいました。

同イベントは、地域の子どもたちの触れ合いや高齢者との世代間交流を目的に開催。

子どもたちは、ピンボールや的当てなどを、スタンプとして訪れた地域の高齢者と交流を深めながら楽しみました。

また、県ガールスカウト第34団の協力によりお茶席が設けられ、室内に飾られたひな壇飾りの前で飲むお茶に、子どもたちは一足早くひな祭り気分を味わっていました。

木の葉の舟に思いを乗せて じろはったんの会

東日本大震災の復興と慰霊を祈念するイベントは3月11日、原釜地区沿岸で開催され、地元の住民ら約100人が木の葉の舟を海に流し、犠牲者に祈りをささげました。

阪神大震災の被災地である兵庫県出身の児童文学者森はなさんの著書「じろはったん」に登場する「木の葉の舟」をもとにした活動で、じろはったんの会の主催。

木の葉の舟は、泰山木（タイサンボク）の葉に亡くなっ

た人へのメッセージや、復興への思い、将来の夢などを記したものを。

兵庫県の「森はな顕彰会」から約4,000枚、県内の賛同者や市内の保育園、幼稚園、小学校などから約3,500枚が集まり、当日にも、市伝承鎮魂祈念館前で記入台を設け、訪れた人に木の葉の舟を募りました。

東日本大震災が発生した14時46分に合わせて参加者全員で海岸に向かって黙とうし、

約7,500枚の木の葉の舟を一齐に海に放しました。



努力をたたえる 市学力調査成績優秀者表彰式



市学力調査成績優秀者表彰式は2月15日、市役所で行われ、市内中学生各学年総合成績10位までの生徒たちが出席しました。

市学力調査は、小・中学生の学力の実態を把握し、調査結果を個別指導に活用することで、子どもたちの学力向上を図ることを目的に実施。

さらに中学生は、子どもたちの学習意欲の向上につなげるため、成績上位者を表彰しています。

立谷市長は入賞者一人一人に表彰状を手渡したあと、「皆さんの努力、そしてそれを支えてきたご家族の熱い気持ちをたたえます。この経験を自信や土台としてがんばってください。心からエールを送ります」と激励しました。

寄付ありがとう 株式会社ホンダセンターウメダ

株式会社ホンダセンターウメダ（Honda Cars 南相馬）による寄付は3月5日、市役所で行われました。

訪れたのは、同社の梅田守代表取締役社長と本田味紀Honda Cars 南相馬原町店の出町店店長の2人。

同社は、1月2日～5日にチャリティー福袋を販売し、得た益金を令和元年東日本台風などで被災した本市と南相馬市に寄付しました。

梅田代表取締役社長は「被災した方の生活再建などに役立ててください」と述べ、立谷市長に義援金を手渡ししました。



フラワーアレンジメントで交流 東部子ども公民館



東部子ども公民館の世代間交流フラワーアレンジメントは2月20日、同公民館で行われ、放課後児童クラブに通う子どもたちと地元の高齢者ら約90人が参加しました。

当日は、社会福祉法人報徳会主催のイベントなどでフラワーアレンジメント講師を務めている小畑子さんを迎え、スタッフとして参加した松川老人クラブと細田老人クラブの会員らと一緒に子どもたちが挑戦しました。

参加した子どもたちは、はさみの使い方などを会員らに教わりながらガーベラやバラなどの花を生け、世代間交流を楽しみました。

京都の小学生と 遠隔地交流 中村二小

中村第二小学校の遠隔地交流学習は2月18日、同校で6年生75人を対象に行われ、テレビ会議システムを用いて京都府福知山市立昭和小学校の6年生と交流しました。

テレビ会議システムは、カメラやマイクからの映像・音声によって、その場にいながら遠隔地とのコミュニケーションを可能にするもので、当日はタブレット端末と大型スクリーンを使って交流。

昭和小の児童たちは、防災キャンプなど防災学習の取り組みの紹介を行い、中村二小の児童たちは、令和元年台風19号などで受けた被害などの説明をしました。



全力で夢に向かって スポーツ笑顔の教室



スポーツ笑顔の教室は2月19日、飯豊小学校の5年生30人を対象に開催されました。

訪れた夢先生は、女子サッカー選手として活躍した法師人美佳（ほうしとみか）先生。

参加した児童らは、法師人先生と一緒に「ゲームの時間」で鬼ごっこやボールを使って体を動かしながら、一人一人がチームのために全力で取り組み、協力する大切さを学びました。

教室で夢先生の体験談をもとに夢を持つことの素晴らしさを伝える「夢トークの時間」で、法師人先生は「失敗はたくさんを教えてくれる宝物だから、どんなことも全力で考えて、全力で楽しんでほしい」と話し、失敗を恐れず夢に向かって全力でチャレンジしてほしいと児童に伝えました。



子どもの意欲を引き出す指導方法を研究 市教育研究会

催されています。

本年度は25作品が出品され、審査の結果、個人の部で2人団体の部で4団体が特選に選ばれました。

市教育委員会、市教育研究会の主催。

当研究作品展は、市内の幼稚園、小学校、中学校の教職員が子どもたちの生き抜く力を培う教育の充実・進展を図るために、日ごろ実践・研究してきた成果を作品として公開展示し、各校での教育活動の改善・充実につなげることを目的に、毎年度継続して開



勝利を目指して全力投球 小学生ドッジボール大会

日、スポーツアリーナそうまで開かれ、市内の小学生が熱戦を繰り広げました。

15チーム143人のスポーツ少年団員らが参加しました。

大会は、磯部白波クラブ男子の村岡明日空さんが力強く選手宣誓をし、男子、女子、混合の部に分かれて、総当たり戦により開催されました。

子どもたちは、目まぐるしく攻守が変わる中、チーム一丸となって最後まであきらめずにボールを投げ合い、爽やかな汗を流していました。



第22回相馬市小学生さわやかドッジボール大会は2月15

思い出の校舎で最後の卒業式

県立相馬支援学校

県立相馬支援学校の卒業式は3月12日、同支援学校で開催され、卒業生19人と保護者が出席しました。

保護者が見守る中、鈴木龍也県立相馬支援学校校長は小学部、中学部、高等部の卒業生にそれぞれ卒業証書を手渡し、「これからも今まで以上のチャレンジ精神で、夢に向かってがんばってください」と式辞を述べました。

同支援学校は、児童生徒一人一人の能力と特性に応じた自立の力を身に付け、豊かな心でたくましく生きていく人間に育てることを教育目標とし、今年度は小学部、中学部、高等部合わせて100人の児童生徒が在籍しており、今年4月から南相馬市の新校舎に移転。現校舎での卒業式は、今年度が最後となりました。



世界の文化を五感で感じる わくわくワールドフェスタ



2020 わくわくワールドフェスタは2月16日、総合福祉センター（はまなす館）で開かれ、多くの市民が外国人などと交流し、さまざまな文化に触れました。

会場には、フィリピン、エチオピア、ジンバブエ、中国、韓国、ルワンダなど世界各国のブースが立ち並び、国を紹介したパネル展示や各国の代表的な料理の販売などが行われたほか、外国の言語のネームカード作成や、ひもを編んでブレスレットを作るコーナーなどがありました。

また、地元を中心に活動しているCLAPS 相馬のチアリーディングやSCBによるストリートダンスもステージで披露され、訪れた人たちは、各国の料理を味わいながら、大いに盛り上がっていました。



いちごの日イベントは2月15日、和田観光いちご園で開催され、多くの来客者でにぎわいました。

同イベントは、市観光協会と和田観光母組合の共同によりイチゴのPRと地場産物の風評被害払しょくを目的に、2年前から開催。

当日は、松川浦観光振興グループの協力のもとアンコウ鍋が振る舞われ、寒い中いちご園に来た方の体を温めたほか、相馬ブランド認証を受けた菓子も販売されるなど、地場産物のPRだけでなく来客者をもてなすイベントとなりました。

市子育て・教育環境充実プロジェクトを支援 オリエンタルモーター



オリエンタルモーター株式会社の西島隆一取締役常務執行役員ら3人は2月19日、市

役所を訪れ、佐藤憲男副市長に寄付金を手渡しました。

当寄付金は、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）として、市と一般社団法人エール・システマジャパンが協働で事業を展開している市子育て・教育環境充実プロジェクトに賛同をいただき寄付を得たものです。

佐藤副市長は「寄付ありがとうございます。大切に使用させていただきます」と感謝を述べました。